

用語集

旅客事業関連

座席キロ

(Available Seat-Kilometers)

旅客輸送容量の単位。総座席数×輸送距離(キロ)。

旅客キロ

(Revenue Passenger-Kilometers)

各有償旅客が搭乗し、飛行した距離の合計。有償旅客数×輸送距離(キロ)。

座席利用率(Load Factor)

総座席数に対し有償旅客の搭乗割合を示した数値で、座席の販売状況を計る指標。旅客キロ÷座席キロ。無償旅客数を含めない点で搭乗率とは異なる。

イールド (Yield)

旅客1人に対する1キロ(または1マイル)当たりの収入単価。収入÷旅客キロによっても算出される。

ユニットレベニュー

レベニューマネジメントのパフォーマンスを定量的に測定する指標で、座席キロ当たりの収入単価(収入÷座席キロ)。イールド(収入÷旅客キロ)×座席利用率(旅客キロ÷座席キロ)によっても算出される。

ユニットコスト

航空業界における単位当たりコストの指標。1座席キロ当たりのコストとして算出される。

レベニューマネジメント

ネットワーク戦略と運賃戦略をベースとし、最適な時期・価格で最適座席数を販売する「イールドマネジメント」を行うことにより、搭乗旅客構成のベストミックスを達成して収入の最大化を実現するマネジメント手法のこと。

需給適合

需要の動向に応じて、路線ごとの運航便数の増減や機材の小型化などによる適正化など、機動的に供給量(座席キロ)の調整を行うこと。

客体ミックス

ビジネス、個人、旅行など、複数の客体による構成比、もしくはこの構成比をコントロールしていくこと。

貨物事業関連

有効貨物トンキロ

(Available Ton-Kilometers)

貨物輸送容量の単位。総輸送容量(トン)×輸送距離(キロ)。

有償貨物トンキロ

(Revenue Ton-Kilometers)

有償貨物を輸送し飛行した距離の合計。有償貨物輸送重量(トン)×輸送距離(キロ)。

フレイター

貨物専用機。キャビンスペース(旅客が搭乗する場所)の座席を取り払い、空洞状につくられた機内にコンテナおよびパレットが搭載される。

ベリースペース

旅客機におけるキャビンスペースの床下部分のことで、貨物搭載スペースを指す。

航空業界・航空会社関連

IATA

国際航空運送協会(International Air Transport Association)の略称。1945年に国際線運航にかかわる航空会社などにより設立。空港発着枠の調整や、航空会社間の債権・債務の精算などの機能を有し、2013年6月現在、241の航空会社が加盟している。

ICAO

国際民間航空機関(International Civil Aviation Organization)の略称。国際民間航空に関する安全とその健全な発展を目的として、1944年に設立された国際連合の専門機関。2013年6月現在、日本を含む、191カ国が加盟している。

スターアライアンス

1997年に設立された世界初、かつ世界最大の航空連合。ANAは1999年10月に加盟。2013年6月現在、世界中の28の航空会社(リージョナル エアラインを含む)が加盟しており、2012年の日本発着の国際線座席キロシェアは37%を誇る。

コードシェア

提携航空会社間でお互いの定期運航便に相手方の便名を付与して運航するもの。事実上は同一便の複数社による販売形態となる場合が多く、共同運航便とも呼ばれる。

独占禁止法適用除外

(ATI: Anti Trust Immunity)

国際線事業を行う航空事業者同士が、路線計画・運賃設定・販売活動などについて協調するにあたり、所属国の競争法に違反しないようにあらかじめ競争法の適用免除に係る許認可を得ること。日本、米国、韓国では、申請に基づき運輸当局がATI認可する制度となっている(当該3カ国以外では競争当局(公正取引委員会など)が主管する場合が多い)が、欧州連合(EU)では事業者自身が法律に基づきセルフアセスメントする制度となっている。ATI認可は、一般に、市場支配力のないこと、利用者利便向上の2点を基本要件としている。

フルサービスキャリア

(FSC: Full Service Carrier)

乗継需要も含めた路線ネットワークを基に、広範囲の市場を事業対象とする航空会社。座席クラスを複数提供し、機内食・飲料などをあらかじめ運賃に含めて提供するなどの特徴がある。LCCとの対比でも使われ、ネットワークキャリア、レガシーキャリアなどとも呼ばれる。

LCC(Low Cost Carrier)

単一機材、機内サービスの有料化、販売の簡素化などによる低コスト体制の下、低価格運賃での航空運送サービスを提供する航空会社。ポイント・トゥ・ポイント(2地点間運航)方式による中短距離・多頻度運航が基本。

その他航空運送全般

ハブ&スポーク方式

車輪の形になぞらえられるネットワーク形態で、車軸に当たるハブ空港から周辺のスポーク空港へ放射線状の路線網を構築するもの。小都市であるスポーク空港間の小さい需要を、大都市のハブ空港に結びつけることで、運航効率をあげることができる。

エクスプレス事業

配送元と配送先をドア・トゥ・ドアで結び、一貫配送サービス事業。2009年10月より沖縄貨物ハブを稼働させ、企業間物流をターゲットとした国際エクスプレス事業を展開している。

沖縄貨物ハブネットワーク

那覇空港を国際貨物の中継拠点(ハブ)として、アジアの主要都市をハブ&スポーク方式で深夜時間帯に接続運航するANAグループ独自の貨物輸送ネットワーク。